

企業行動研究部会議事録（第 250 回）

日 時： 平成 29 年 6 月 12 日(月) 18:00-20:00

場 所： 中央大学駿河台記念館 3 階 350 号室

出席者：（15 名 勝田 河口 北川 木下 栗栖 西藤 佐久間 櫻井 佐藤 永井 肥後 菱山
古山 松尾 宮澤 敬称略）

1. 連絡事項

勝田部長より開会が宣せられ、本日は 3 テーマについて発表ご議論を頂くことが説明された。
また河口幹事より総会出席依頼と欠席の方への委任状提出依頼等が行われ開会した。

2. 第 1 テーマ：トランプは何故嘘をつく？（松尾 實）

松尾部会員より、表題の件につき報告が行われ質疑応答が行われた。

<報告骨子>

30 年ほど前に、ニューヨークにトランプタワーを建設して一躍有名人となった不動産屋 2 代目のトランプ氏は“嘘つきで優秀な不動産屋”で、世界トップの有名人がここに入居していると嘘の名前をマスコミに発表するのは常套手段。ヤンキース松井秀喜や田中マー君なども入居者と発表されたが嘘だったようです。昨年の大統領選のテレビ討論会では 3 4 回の嘘発言をし、相手側ヒラリー氏は 4 つの嘘があったと分析されています。また、「大統領選挙では 500 万人の外国人が不正投票した」と主張したが、証拠は何もなく、大統領就任式には、「参加者は 150 万人で過去最大だった」と言い張ったが、推定 25 万人とも報道されたことは記憶に新しいところです。

1987 年刊行「トランプ自伝」のゴーストライター、シュウォルツ氏が、自責の念に駆られて、昨年 7 月「ニューヨーカー」に暴露した内容が紹介されましたので下記の通り一部を引用します。現在の混迷する世界政局を理解する一助に、米国大統領の人間性を参考にして下さい。 以下詳細略

<意見交換>

- ・米国の抱える問題が表れている
- ・戦後米国の影響は極めて大きく、選挙制度自体が大変大きな問題を含んでいることが明確になった
- ・特別検察官による弾劾制度または、中間選挙に期待するしかないというのが事態と考える
- ・彼を選んだ国民自体が動揺している。マスコミにも大きな責任がある
- ・米国の独立検察官制度が米国では機能している。日本にこれがないことを指摘したい

以下略

3. 第 2 テーマ：ユニリーバの ESG 課題への取り組みに関する事例研究（櫻井部会員）

<報告骨子>

～本業直結の取組み&外部団体との連携

CSR とは

業績との相関関係：あり VS なし

社会課題とは？：(SDGs) サステナビリティは企業の喫緊の課題

ユニリーバはサステナビリティへの取組の先端事例

本業を通じての取組とマテリアリティ分析（マテリアリティマトリックス）

アライアンスの利点と欠点、CSR 優良企業の特徴、

クロス集計：マテリアリティ分析と（国内・国際）業界団体の CSR 基準・前記の発見事項

ユニリーバの事業及びサステナビリティへの取組み（詳細は略）

同社が対峙したサステナビリティ課題（パーム油をめぐる諸問題：温暖化ガス、生物多様性、先住民の保護、労働者の人権蹂躪）・・・個別説明は省略

持続可能なパーム油の為に円卓会議（RSP0） 責任あるパーム油調達のための努力

RSP0 の構成団体（油やし生産者、製油業・商社、消費者製品製造業、環境・自然保護 NGO、社会・国際 NGO、銀行・投資家、小売業） 2004 年設立（WWF、MPOA、Unilever、MiGROS、AAK）

ユニリーバが果たした先導的役割

他社・他産業への波及効果（花王、トヨタ、住友林業、イオン等への効果）

効果：環境と社会を守る企業イメージの醸成、パーム油の安定供給

終わりに：大学生が選ぶ働きたい会社ランキング：世界 34 か国で 1 位

<意見交換>

- ・素晴らしいご発表に感謝、ユニリーバは他の企業の受け身的な対応と異なると理解すべきか
➡受け身の部分もあると考えるが、プロアクティブで、認証パーム油を制度化することで製品が高くなるが、むしろ戦略的に取り組むことで最大手の位置を保持拡大する戦略とみることも出来る。これは裏付けがあるわけではない。
- ・その通りだと理解する。そういう予兆を素早く取り上げて活動するという意味で尊敬も評価もしている。社会的課題に先頭を切って進めている。
- ・3月22日当学会講演会のスピーカーのサラヤの更家社長の話でユニリーバについては言及がなかったと思うが何かお考えがあるか。サラヤについての意見はあるか。
⇒サラヤについては、資料を見た程度で深くコメントはできない。
- ・30年か40年前にアマゾンで、ババサヤシの話聞いたことがあるが、当時その会社はNASAの高級オイルとして納めたり、殻を高級な炭として供給していたことを記憶するが、これらの油間の調整はどうなっているか。
- ・伐採したパームヤシについては、新たな植栽を循環することを含めて実施していると認識するが、そのバランスはどのようになっているか。
⇒本当に実証可能なバランスが成立するかも気になる
- ・研究者としてのクリティカルな意見を申し上げると、会社の広報としての公表内容に対しクロスする主張などの確認や、検証を入れて研究発表されることが重要と考える。
- ・消費者活動での極端な活動も米国などでは見受けられる
- ・CSVの典型のようにも感じる場所もあるが、さらに研究を進められたい

以下略

4. 第3テーマ：「どうすれば 尊厳・自由・平等と健全な生活を保持できるか」（菱山部会員）

<報告骨子>

第一部 我々が残した課題

1. 個人の尊厳・自由・平等とディーセントミニマムを充足する筈なのだが。
2. 貧困が進む

3. 富と所得の格差が拡大した
4. 負の社会現象がはびこる

第二部 近未来：このままいったらどうなるか

5. 国民生活の不安要因
6. 加えて人工知能／ロボットが加速度的に進歩。雇用喪失や社会生活にインパクト。
7. 近未来がそのような状況になれば、国民生活と民主主義の破綻を招きかねない

第三部：もはや限界。どうかしなければ。リセットしなければ。

1. 基本的な発想 日本は問題意識・危機感に乏しく、周回遅れ
2. 一つの候補として ユニバーサル・ベーシック インカム (BI) 構想が浮上している
 - (1) 尊厳・自由・平等を具現する近未来の施策として海外では議論が盛んである
 - (2) すでに社会実験が各国で始まっている

第四部 近未来の経営倫理はどうなるか

1. 近未来の社会経済システムはどうなるか
2. 経営倫理に関する普遍的な原理は不変か

<意見交換>

- ・人口動態は要件として受け入れざるを得ないが、私はAIに様々なことを任せるという解決策があると思うがいかがか
- ・AIは解決策ともいえるが問題でもある
- ・この資料の中にAIを入れると経済成長が止まるとの主張に見えるが、AIやロボットを入れると市長が亡くなるという理論には無理があるのではないか
- ・GDPの定義を変更しないといけない
- ・第4次産業革命の中の一部としてロボットやAIもある
- ・GDPを増やすことだけを目的としなければ回答があるのではないか
- ・最後のどうあるべきかのところで、インテグリティをカタカナで書かれているところに重要な味噌がある
- ・仮想のものが来るか来ないかは別だが、極端に言うと末端が個人になってくることもあるのではないか？
- ・インテグラルの本質のようなところで、経営倫理というものを考えてゆくべきではないか
- ・あらゆるものが完璧な絡み合いを演じることがインテグリティ
- ・人格を含む統合性のようなものがインテグリティなのではないか
- ・GEの前社長の話の中にインテグリーな評価のような言葉があった
- ・アマゾンにインテグリティはあるのかという議論にもなってしまう
- ・アマゾンには消費者の究極が見えているのではないか
- ・企業も人も行動する中でどうあるべきかがインテグリティと考えれば良いのではないか
- ・自分が提起したのは、このまま進んでゆくことについての意見展開
- ・5月に霞が関の若手官僚の書いたものが、菱山氏の主張と似ている部分がある
- ・滅びゆく社会という話 INDUSTRY 4.0 やソサエティ4.0 があるが・・・
- ・AIに任せばよいとか、一人の視点での意思決定はもうありえなくなっているのではないか

- ・ベストプラクティスのようなことが10年程度で出てくるのかもしれない
- ・デジタルファーストからリアルに落とし込むことが現実になってきている
- ・リアルとバーチャルの境目なくなってくることもあり、区別の必要がない
- ・人間の脳とコンピュータは究極にいかないと差が出ない（例えば神を信じるか信じないか）
- ・AIになっても不要にならないのは、保育士と介護士との話もある

以下略

5. その他

勝田部会長より、以下のコメントがあり閉会した。

- ・今後も議論を継続したいが、経済同友会の提言も参考になるかと思う
- ・次回は研究発表大会についての意見を交わして行きたいので、各位おまとめ頂きたい。

以下略

(文責：河口)

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：朝倉、荒川、安藤、石川、井上(真)、井上、岩倉、上原、遠藤(淳)、遠藤(梨)、大泉、大島、岡田(佳)、勝田、加藤、河口、川村、北川、木下、熊本、栗栖、桑山、小池、西藤、斉藤、佐久間、櫻井、佐藤、柴柳、鈴木(啓)、瀬名、潜道、高橋、武谷、田村、出口、徳山、中島、永井、那須、西井、西村、野瀬、野田、比賀江、樋口、肥後、菱山、平塚、古谷、古山、前原、増岡、増澤、増淵、松尾、松本、丸山、水島、水野、峰内、宮川、宮澤、山口、山中、山本、横館、吉村

[学会本部]：梅津会長、水尾副会長、高橋前会長、内田事務長